

農技セ第6512号  
平成27年8月3日

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

### 平成27年度技術情報について

平成27年度技術情報第4号を発表したので送付します。

---

### 平成27年度技術情報第4号

平成27年8月3日  
徳島県

#### イネいもち病(穂いもち)及び紋枯病の発生状況及び防除上の留意点について

県北中部及び西部における普通期水稻では、7月下旬からいもち病(葉いもち)及び紋枯病の発生が平年に比べて多くなっています。高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多く、気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照は多いと予想されています。

いもち病(穂いもち)には、発生抑制的な気象条件ではありますが、進展型病斑や葉のずり込みが確認された圃場もあり、発生量の増加が懸念されます。また、紋枯病には、発生助長的な気象条件であり、今後、発生量の増加が懸念されます。現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：普通期水稻(9月中旬以降に収穫するヒノヒカリ等)  
病虫害名：いもち病(穂いもち)、紋枯病

1. 発生地域 県下全域(主に県北中部～西部)
2. 発生程度 いもち病：少～中(前年よりやや多く、平年よりやや多い)  
紋枯病：多(前年より多く、平年より多い)

#### 3. 発生状況

##### (1) いもち病(葉いもち)

県北中部及び西部における7月下旬(7月24, 27, 28日)の巡回調査では、発生圃場率が76.9%、発病度が9.5であり、平年(54.3%, 5.3)に比べて発生がやや多い。また、一部の圃場では、進展型病斑やずり込み葉も確認された。

##### (2) 紋枯病

県北中部及び西部における7月下旬(7月24, 27, 28日)の巡回調査では、発生圃場率が76.9%、発病株率が32.8%であり、平年(42.4%, 11.7%)に比べて発生が多い。

(3) 本年7月上中旬は、曇雨天の日が多く、台風又来襲もあり、降雨量が平年より237.9mm多く、日照時間も平年の約60%で経緯した。

(4) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多く、気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照は多いと予想されており、いもち病には発生抑制的な気象条件であるが、紋枯病には発生助長的な気象条件である。

#### 4. 防除上の留意点

##### (1) いもち病(穂いもち)

① 周辺に葉いもちの発生が見られる圃場では、農薬の使用基準を確認の上、粒剤の場合は出穂10日前までに、液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合は穂揃期にも防除を行う。

② 窒素質肥料を過用しない。特に、出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので、穂肥、実肥の施用時期・量に注意する。

##### (2) 紋枯病

① 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、発生が多い場合には、出穂直前の防除を追加して、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

② 防除は県植物防疫指針に基づき、使用基準をよく確認し、収穫時期を勘案の上、適切な剤を使用する(防除薬剤例：バリダシン液剤 500～1,000倍 収穫14日前まで)。